

平成21年度 第1回豊田市生涯学習審議会 会議録

【日 時】 平成21年7月24日(金) 午後2時～午後4時

【場 所】 豊田市役所 団体会議室

【欠席者】 近藤ひさ子(元交流館長)

【次 第】 1 社会部長あいさつ

2 社会教育委員・生涯学習審議会について

3 正副会長選出

4 議 事

・平成20～21年度 豊田市生涯学習審議会の審議事項について

・平成20年度重点取組項目に対する外部評価について

5 報告

・愛知県社会教育委員連絡協議会の各種研修会等の開催日程について

【議 事】(1)平成20～21年度 豊田市生涯学習審議会の審議事項について

平成20～21年度 豊田市生涯学習審議会の審議事項として「生涯学習活動の成果を地域に還元するしくみ」とすることについて事務局から説明し、委員の了解を得た。

【意見】

- ・各交流館は地区での特徴を活かし、よくやっている。取組が全体に広がればよい。
- ・NPOの立場では、地域参加が難しい。
- ・合併町村部の交流館は、交流館としての歴史は浅いが、地域が協力しながらがんばっている。
- ・交流館事業の中で、青少年・中高生のかかわりの部分が薄い。青少年対象の事業は難しいが、今の交流館事業をいったん整理して、中高生の部分に手が付けられるとよい。
- ・交流館職員がコーディネートしている部分が、資料2-1のイメージ図に表現されていない。
- ・交流館職員がコーディネートを担うとあったが、利用者側がコーディネートすることもある。利用者から提案したことが交流館で実現するのは楽しい。
- ・中学校と交流館の連携については、交流館が企画する一人暮らし高齢者と中学生との交流事業に、中学生が主体的に参加していると聞く。高橋中学校と高橋交流館は、隣接していることから、これまで7年間にわたり、中学校の文化祭と交流館のふれあいまつりを合同企画で実施している。
- ・高橋交流館のわくわく子どもキャンプは、学生の提案で始まった事業で、中学生が小学生を招いてキャンプを行っている。子どもリーダーがキャンプの企画や準備など、年間を通じて子どもが育つ場を提供し、支援している。この活動を支えているのは交流館職員。キャンプを実施するのは大変な努力が必要。
- ・交流館職員の職務の中で、来館者に対して声かけする活動(ロビー活動)や、職員が館外に出て行って名前の知らない子に声かけする活動(アウトリーチ活動)は交流館の役割を担う上で重要な活動だが、職務として明確になっていない。その結果、職員のモチベーションの低下につながっている。
- ・地域に還元するとあるが、「還元」は、一方的なことばで、市が投資した分を市民から返してもらうという意味合いにとれる。成果が「循環」するしくみの方が良いと思う。

- ・交流館に求められる役割が増えていると感じる。
- ・交流館がめざす「人づくり・地域づくり」というキーワードがあることから、交流館の機能の中に地域包括センター的な機能が求められていると感じる。

【議 事】(2) 平成20年度重点取組項目に対する外部評価について

平成20年度生涯学習課の重点取組項目であった「ものづくり文化の醸成とものづくり活動の支援」の評価を行う予定であったが、評価手法が不適切、対象範囲が広い、評価用の資料提供が不十分などの理由により、会議内での評価は行わないこととなった。

外部評価の対象事業を「学校におけるものづくり教育」に絞込み、評価に必要な資料を会議後郵送し、書面で各委員の評価結果を収集することとした。

評価結果の取りまとめは、審議会の正副副会長に諮り、決定することとした。

【意見】

- ・評価をしてほしいという依頼は唐突であり、対象範囲も広く、知らない事業を評価することはできない。
- ・(前 教育長という立場で)ものづくり教育については、どのような趣旨で実施されるか知っているが、内容としては良いもので、子どももいいと思っている事業だと思う。
- ・子どもたちの声を集めたものを、評価のための資料に追加してほしい。
- ・良いという内容の資料だけを並べられても評価することはできない。
- ・子どもが(ものづくり教育によって)どのような状態になったらこの事業が成功というイメージをもっているか。
- ・見方によっては、学校の先生を手助けするだけの内容ともとれる。
- ・ものづくりサポーター事業があるということを、この会議に出てみてはじめて知った。周知のための取組が必要。